

弘大大学院と
黒石・中郷小

健康の秘訣 授業で学ぶ

短命県返上へスクラム

「長生きの秘訣は小学校から」をテーマに、弘前大学大学院医学研究科社会医学講座と黒石市の中郷小学校が、同小6年生64人を対象に計5回の短命県返上プロジェクト授業」を共同で企画し27日、同校で1回目の授業を行った。児童たちは同研究科長の中路重之社会医学講座教授や担任の教諭と共に、本県の平均寿命が全国最下位に低迷している要因を考えながら、健康に対する意識を高めた。(若佐谷雅之)

小学生のうちから健康に
対する正しい知識や生活習
慣を身に付けさせ、全国最
下の本県の平均寿命を延
ばすきっかけにするのが目
的。中路教授が、知り合い



中路教授④の話を熱心に聞く児童たち

の山内孝行・中郷小学校長と短命県返上について話し合う中で、小学生のうちから健康について学ぶことが大

事だとの意見で一致。同校を舞台に、短命県返上へ大
学教授と小学校教諭が連携
して取り組むユニークな授
業が実現した。
1回目の授業で児童たち
は4人ずつに分かれ、なぜ
本県が短命県なのかを考
え、「(食事で)塩分や糖
分を取りすぎ」「運動不足
」「生活習慣の乱れ」などと
発表し合った。

中路教授は児童たちの的確な分析に感心し、がん、
心筋梗塞、脳卒中の三大生
活習慣病で多くの人が亡く
なっている現状を説明。
「生活習慣を良くすること
が長生きにつながる」と述
べた。
授業は12月1日まであと
4回実施。これとは別に6
年1組の32人は、11月18日
に同校で、黒石高校看護科

3年生16人と交流しながら
授業を行う予定。